平成28年度　第８号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成29年2月3日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

11月15日　中保育所　中舞鶴幼稚園　中舞鶴小学校　保幼小連携公開授業･保育が実施されました

中舞鶴は1中学校、1小学校、１幼稚園、１保育所からなり、保幼小中の連携が以前から活発な地域です。今回は、夏の小学校教育研究会生活科部との合同研修で立てた「たのしいあき　いっぱい」の連携活動プランを元に公開授業・保育を実施していただきました。この研修で計画した連携活動プランを市内のどの協力園・校も実施することとなっており、参加してくださった教師や保育者の皆さんにとっても大変学ぶことが多い内容となりました。

夏に引き続き、鳴門教育大学大学院教授　木下光二先生にご指導をいただきました。

日時：11月15日（火）9：45～10：30
場所：中舞鶴小学校　体育館
参加：中舞鶴小学校１、２組　ひばり　53名
　　中舞鶴幼稚園　５歳児すみれ組　26名
　　中保育所　　５歳児さくら組　23名

参加園／校

永福保育園	朝来幼稚園	朝来小学校	三笠小学校
岡田保育園	池内幼稚園	余内小学校	明倫小学校
さくら保育園	倉梯幼稚園	池内小学校	福井小学校
相愛保育園	橘幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
なかすじ保育園	中舞鶴幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
東山保育園	舞鶴聖母幼稚園	倉梯小学校	与保呂小学校
八雲保育園	三鶴幼稚園	倉梯第二小学校	
やまもも保育園	ひばり幼稚園	志楽小学校	
ルンビニ保育園	舞鶴幼稚園	新舞鶴小学校	
うみべのもり保育所		高野小学校	
中保育所		中舞鶴小学校	
西乳児保育所		中筋小学校	

当日までに、近くの山や公園、小学校で一緒に秋の自然物を集めたり、交流をしたりしてきました。その中で、子どもたちの興味や関心のある秋の自然物を使った遊びを４つのコーナーにし、５歳児と１年生がペアで遊びのコーナーを選び、活動していました。必要な材料や道具は各コーナーをつなぐエリア上にあり、そこで情報を交換する姿も見られました。

体育館　４つのコーナー

＜遊びコーナー＞
　秋の自然物を使ったおもちゃを作ったり、ゲームを考えたりする。どんぐり釣りやころころゲーム等遊んだ人が楽しめるような遊びを考えてほしい。（指導案より）

＜服コーナー＞
　服を作ったり、装飾品を製作する。作ったものを使ってファッションショーをしたり、お店ごっこをして楽しんでほしい。（指導案より）

ステージ

材料・道具

＜転がし遊びコーナー＞
　大きな動きを伴う遊びを考えて楽しむ。雨どいを使ってどんぐりを転がしたり、ゴムで飛ばす際に転がった距離を比べる等の工夫をしながら遊んでほしい。（指導案より）

＜楽器コーナー＞
　楽器や音の出るおもちゃを作る。演奏したり、実際に音を出して楽しんでほしい。（指導案より）

事後研究（カンファレンス）

中舞鶴小１年担任
◎保育所、幼稚園の子どもたちとの取り組みは３回目になるが、１、２回目は、１人で動いている子もいたので、振り返りでペアの子と話し合う、子どもたちの中の担当、役割分担を意識するよう投げかけた。
◎３回目に変わったところは、２人で手を取り合って作る、考えて知らせる、手伝う、２人で一緒に作るなどが見られ、自分たちでやりたいことを主体的にしている。
◎始めはファッションショーだけだったが、子どもたちのやりたいことが縛られてしまうなどを話し合い４つのコーナーにした。
◎ペアは１学期から固定し、材料集めから一緒にしたが、初めは話もできなかった。
◎リーダーでお手本になる子も、対等の子もいたが、自分たちがリーダーという自覚も出てきた。

中舞鶴小１年担任
◎生活科の中の取り組みとして交流してきた。
◎ペアを組ませることで関係性ができ、前回から役割分担ができるようになった。
◎一人でやってしまっている子にどのようにつなげるかが難しかった。
◎こだわりを持って作るような働きかけが難しかった。
◎秋のものをたくさん使ってほしいがあまり使っていない子もあり、集めるところから考えさせることが必要だった。
◎１年生と幼児が順に使ったり、一緒にできた喜びを感じたりしていた。
◎ペア同士の遊ぶ関係性につなげたい。

中舞鶴幼稚園年長担任
◎年長組として一学期から交流してきた。
◎毎回楽しみに待っており、ペアから友だち関係ができてきた。
◎園では一番上でお世話をしているが、連携では１年生に助けてもらう。
◎初めは自分で言えなかったが、「今日は〇〇を作りたいからこれを持って来た」「このコーナーに行きたい」と自分で伝えるようになった。
◎こんな考えや工夫もあるということを途中で言葉がけするか迷った。
◎ペア同士をつなげる言葉がけがあってもよかった。
◎作ったものを紹介すると同じものを作ってしまうので難しい。

中保育所年長担任
◎いつもは保育所の慣れた園庭でとい遊びを楽しんでいる。今回、それぞれ興味のある遊びから選ぶということで、体育館でやったがいつもの環境とは違った。
◎いつもと違う環境で違う友だちと考える機会にはなったが、遊びの展開は難しかった。
◎園庭では自然の物を使うが、体育館では１年生の子が中心になって物をそろえ、転がす、高さを考える、ロープウエイ等遊びが広がっていった。
◎ステージを使っていたら友だち同士で工夫しなかったので、ステージは使わず階段を使い、今日はまわりで集まる姿、友だちが隣のグループを見て遊びを広げる姿もあった。
◎道具が足りないときも「一緒に使ったら」「持っといて」「取ってきて」という声かけがあり、協力する姿も見られた。

保幼小接続カリキュラム策定会議会長溝邊和成先生（兵庫教育大学大学院教授）コメントより

【保幼小の連携関係】
◎子どもが実際にペアになって手をつないで協同製作することの大事さ、おもしろさ、少し抵抗もありながらというのが一番学びが多い。
◎１年生が幼、保の子に教える場かというとそうではない。
◎木に輪ゴムを引っ付けてつながるかを確認し、「これをこうやってつなぐ」と言い始め、良い発見だった。自分で確認できないと相手に伝えられない。横で幼児が待って見ている姿は大いに意味があった。
◎子どもの役割はお互いがサポーターの場合もある。

【環境構成】
◎体育館はどういう発想で、子どもの動線はどうかを考えないといけない。
◎真ん中に道具がいいのか、端に道具がいいのか、いろんな意図や発想があってされているのだろう。今後の環境構成が楽しみである。

【子どもの遊びの連続性】
◎指導案では、最後は秋パーティーをとあった。そこを子どもが見据えて、どんなイメージでどんなビジョンを持っているのか、持たせられているのかが気になった。
◎自分自身の自覚的な学びになっているともっと良い。
◎大事なことは、子どもたちが前の活動とのつながりや、どこまでやろうという見通しや思いを意識できているかである。それを先生たちはどのように導いていくのかも大事にしていくとよい。

木下先生　講評

時間をどう構成するか、空間をどう構成するかが今後の鍵になってくる
～木下先生コメントより～

【活動について】
◎準備しすぎてはいけない、環境構成は大事である。
◎転がし遊びをなぜ体育館でやったのか、いつも保育所では園庭でしているのならいつもの方がよかった。といに水が流せない、TPOをいかにうまく使うか。
◎小学校には小学校の良さ、保育所、幼稚園には保育所、幼稚園の良さがあり、遠慮してしまうと互いの良さが生かされない。
◎お互いに「こういうことを大事にしているからこうしたい」としっかり伝え合う。
◎といを止めるのはクリップだったが、これは子どもの発想が生かされたのか、園庭だといろんなところからいろいろなものを探して来ることができる、これが子どもの学びになる。
◎教科や時間割のある小学校とチャイムもない保育の中での連携だが、雨が降れば次の日にと変更すればよい。
◎互恵性はあった、あとは環境構成、公開授業・保育だからではなく、遠慮しないで相手を信頼して言い合えばよい。
◎必ず通らなければならない道である。大事なのは次回、今日と何が違うかを感じ、そこで先生たちが学び合い成長することが大事である。
◎最初、９時半にそろっているのに９時50分にチャイムがなってからの活動だったが、待つ時間がもったいない。やりたければ先に始めてもよい。後から加われば よい。
◎**時間をどう構成するか、空間をどう構成するかが今後の鍵になってくる**。
◎小学校に環境を通して学んでほしいことは、子どもが自ら環境にどう働きかけているか、必要なものを自分で取りに行けているか？である。今日は先生が作られた環境の中で取りに行った。
◎小学校、保育所、幼稚園、それぞれの環境を生かしていくことが大事である。
◎若い４人で異なる教育を見て学んで改善できることが大変良い経験になった。
◎子どもたちに「協力しなさい、仲良くしなさい」は言わない。今日だけでなく、普段からすることが大事である。
◎振り返りの中で、今日の活動で仲良くしていたチームを紹介することで伝える。活動の中で、先生が見つけた素敵なペアを紹介し子どもにフィードバックすることが大事である。
◎活動の中から教師自身も学ぶことが大事である。

木下先生　講評（つづき）

〇〇することを書くのではなく〇〇することで何を学んでいるかを可視化する　（指導案）　木下先生コメントより

【先生同士の学び】

◎５年前は一方的に小学校が説明され、仕組んだことをしていたが、今回は互恵性が見られずいぶん連携が進んだ。
◎小学校は若い男の先生が１年生を担任しており、早くから学ぶことができる。
◎連携でまず大事なことは、幼児教育に何を学んだかである。
◎体育館が、幼児にとって違和感がなくなってきている。入学式の時には安心感があり子どもに大きな意味がある。
◎連携は小学校にとってお得、小学校教育を安心感からスタートできる。連携がないと不安感からのスタートになる。回数を重ねるごとに少しずつ慣れると良い。
◎**子ども同士の連携、先生同士の連携、先生たちが一緒に何を学ばれたかが大事である。**

（小学校）
◎子どもたちの「〇〇したい、□□したい」という思いに準備しすぎてもいけないことや、あるものから遊びを発想することを学んだ。
◎幼児にどんな言葉がけをしたらよいか。
◎小学校の舞台にのせるのではなく、保育所、幼稚園の中に自然に入れるようにすることや、場の位置、環境設定も学んだ。

（幼稚園）
◎教師も同じ思いで連携していかなければならない。
◎環境構成など小学校との違いを先生たちにどう伝えやり方を歩みよるかが難しかった。

（保育所）
◎連携は４月からいろいろと取り組み、初めはコミュニケーションが難しかった。
◎小学校に任せるのではなく、互恵性を意識してしっかり話し合うことで先生同士も変わってきた。
◎子どもたちも変化し協力するようになってきた。

【指導案について】

◎今日は生活科の指導案。保育の中で育てたい力があったはずなので、保育指導案が別にあってもよい。どんなことをどんな活動を通して育てたかったのかを書く。
◎〇〇することを書くのではなく、**〇〇することで何を学んでいるかを可視化する**ことが大事である。
◎**何を子どもたちが学んできたかを書かれるとよい。**
◎教える、お世話するは書かれていないので互恵性を意識されているのがよかった。

現地研修　報告

【平成28年度　幼児教育研究会】
日時：11月19日（土）
場所：鳴門教育大学附属幼稚園
参加：岡田保育園、昭光保育園、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、舞鶴幼稚園
内容：公開保育、研究発表、分科会、対談

参加者アンケートより
【公開保育について】
「季節の自然物を使ったものが至る所に展示されている」「子どもの動線を考えた環境構成」「自然物ひとつとってもなぜここに置かれているか等が良く考えられている」などの環境や子どもたちが自ら遊びをつくり出す主体となっている姿、それを支える保育者の姿に参加者の多くが刺激を受けてきました。
◎一人ひとりの子どもが自分なりの目的をもって遊びに没頭している姿があった。
子ども達が使う（自ら）という観点での素材、棚、ロッカー等の配置などがしてあり、子どもの中に使い方、ルールが定着していて、そのことが各々の遊びへの集中を高めていることを感じた。
◎子どもたちが自分たちで遊びを進めていく場面も多く、保育者が遊びの仲間として参加する中で、保育者自身が感じたことをしっかりと伝えておられる場面が多く勉強になりました。
◎子ども達が１人や２人等少人数であっても自分の遊びに夢中になって遊んでいる。それぞれの遊びの丁寧な環境構成、子どもの遊びや気持ちをつなげる関わりの大切さを感じた。
【研究発表・分科会・シンポジウム】
◎分科会では新任ならではの悩みがあり、私も共感できました。失敗を恐れずに挑戦することで、保育の質も向上するとおっしゃっていたので、どんどん挑戦していこうと感じました。
◎研究発表では日々の日誌を見直され、保育者の素直な率直な思いを綴る欄ができたことでの心境や保育の変化を聞くことができ、参考になった。保育がどのように変化していったのか、そのときのリアルな思いを聞くことで、この欄ができたことで、自身の保育を真に振り返るよいきっかけになったんだなぁと思い、私も自身の保育を振り返るきっかけとして参考にしたいと思った。
◎「**子どもができるようになるのではなく、子どもが好きになるような保育者の援助（関わり）が大切ですね**」とお話されていたところがとても印象的でした。子ども一人ひとりに対する一言一言の大切さを改めて感じました。
◎「**教育課程を語る・・・言葉と子どもの姿が結びついているのか？**」の言葉が印象に残りました。育てたいことを見失うことなく保育と向き合っていきたいと思います。
◎保育者が生き生きした子どもの姿を語れることが保育の喜びであり、成長となることや職員関係の言いやすさ、プラスもマイナスもが出し合えるような環境が大切であると感じました。

【神戸大学附属幼稚園・附属小学校
平成28年度　研究発表会】
日時：11月19日（土）
場所：神戸大学附属幼稚園・附属小学校
参加：昭光保育園、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、高野小学校、吉原小学校
内容：公開保育・授業、事後検討会、部会提案、シンポジウム

参加者アンケートより
◎幼稚園の子どもたちが、本当に園庭中を所狭しと動き回り、好きな遊びに夢中になり、友だちとかかわり遊んでいる姿を見て、主体的に遊ぶとは、本当に心も身体ものびのび楽しみ、満足しているのだなと感じた。落ち葉が集められていたり、土山や土管などの環境構成もすばらしく、子どもたちがわくわくしながら遊ぶ気持ちが伝わってくるようであった。子ども同士の会話がたくさん聞かれ、言葉の世界も豊かだと思った。
◎秘密基地の設計図、地図が子どもなりの表現で書かれており、それを見てから園庭に出る子があり、みんなで共有するツールになっていた。
◎ごっこ遊びの中で、自分のしたい事を伝えたり言ったりしながら、友達の考えにも同意したり反論し、子ども同士でごっこ遊びの世界をつくりあげようとする姿が良いと感じた。（自分と友達の気持ちのすり合わせができ、個人の遊びがそれぞれつながっていたため）
必要な物が自由に使えるようにしてある環境構成も良かった。（子どもの遊びに応じて必要なものがさりげなく用意してあった。）
◎園庭の中に、子どもたちが作り上げた様々な環境設定があり、やりたいことを存分にしていたので良かった。室内の玩具を自由に持ち運んでくる場面を見て、自分はそこまで子どもの気持ちを受けとめられるだろうか・・・と思った。
◎一年生事後検討会で、公開保育の中ではわからなかった今までの時間的な取り組み方、お店屋さんごっこの年長児と１年生の違いがよくわかった。